



活動概要

公益社団法人
日本工学アカデミー

日本工学アカデミーEAJの黎明



- 1978年:江崎玲於奈博士が来日以来、「工学学士院」構想を
日本政府・国会・学術会議・経済団体に提唱
- 1983年:工学・技術振興懇談会(有志17名)発足、審議開始
- 1985:日本工学アカデミー設立企画委員会発足
 - ・産官学を問わず、工学研究・技術開発・産業振興他に貢献
 - ・会員は個人の立場で、運営資金は会員の会費で賄う独立・
中立組織を志向する、との結論
 - 1.創造的な研究開発の整備
 - 2.基礎的研究推進のための環境の整備
 - 3.工学及び技術の分野における国際交流
- 1987/4:日本工学アカデミー創立総会(日本工業倶楽部)
 - ・小林宏治初代会長(日本電気株式会社会長)を選任
 - ・入会会員417名(内発起人180名)、総会出席者234名

アカデミーの姿、EAJの特徴と実績



➤ アカデミーとは

学問や芸術に関する指導的な人材により構成される組織で、会員は**一定の推薦制度にもとづき推挙**され、**生涯、学界や社会のために活動**する。この考え方は米国、英国、ドイツ、フランス、スウェーデン、中国など各国のアカデミーで広く共有されている。

➤ アカデミーの対外活動

科学者を代表する組織として**社会的にその存在が認められており**、学界に関わることばかりでなく、政府や議会を含めて**外部への提言活動**を積極的に行っている。

日本工学アカデミーEAJの特徴と実績

- 「人類の安寧とより良き生存(Human security and well-being)のために、未来社会を工学する(Engineer the Future)」を理念とする、独立・中立運営の団体。
- 33カ国で構成する国際工学アカデミー連合(CAETS*)に、その10番目のアカデミーとして、日本を代表しての加盟が1990年に認められた。
- 工学及び科学技術、並びにこれらと密接に関連する分野に関し顕著な貢献をなし、広範な識見を有する指導的な人材として推挙された会員**が個人の立場で、公益目的事業に係わる委員会、支部、国際活動などを通じ、学界、産業界、社会だけでなく、政府や議会も含めた、国内外での提言活動、分け隔て無い積極的な意見交換を行っており、社会的にその存在が認められている。

* CAETS : International Council of Academies of Engineering and Technological Sciences

EAJ会員選考プロセス：個人会員(正会員・客員会員)は、会員3名を推薦人**とする「会員候補者推薦書」に基づき、会員選考委員会(委員長、幹事2名、8分野委員36名)で入会審査を実施。候補者を理事会に推薦、理事会承認を経て入会となる。



人類の安寧とより良き生存 (Human security and well-being) に向けて、 「未来社会を工学する」 (Engineer the Future)

定款 4 条に定める5 事業

- (事業1)創造的革新技術の萌芽の模索、評価等による、先見性・創造性のある基礎研究の推進のための調査研究、提言等に関する事業
- (事業2)社会、産業界、学界が工学及び科学技術に関する分野で直面している具体的問題の把握とその解決に関する事業
- (事業3)工学及び科学技術に関連する問題についての普及啓発活動に関する事業
- (事業4)工学及び科学技術の分野における国際交流の推進に関する事業
- (事業5)その他本法人の目的を達成するために必要な事業

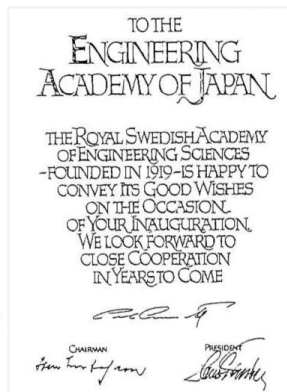
- 羅針盤となる政策提言を発信する
- 国際的に先導的な活動実績を積む
- 次世代を担う指導的な人材を育む
- 市民の科学技術活用能力を伸ばす
- あらゆる壁を越えて共創を広げる

沿革



小林宏治
EAJ会長

カール16世グスタフ
IVA名誉会長
(スウェーデン国王)



設立と法人化

- ・ 1987年4月16日
- ・ 1998年1月5日
- ・ 2013年7月1日

設立
社団法人化
公益社団法人に移行

スウェーデン王立理工学アカデミーからの記念品授与
(1987年11月3日 スウェーデン大使館)
EAJ News No. 1&3 (1987, 1988)

歴代会長

1987年度-1988年度	小林 宏治	1989年度-1993年度	向坊 隆
1994年度-1997年度	岡村 總吾	1998年度-2001年度	永野 健
2002年度-2005年度	西澤 潤一	2006年度-2009年度	中原 恒雄
2010年度-2015年度	小宮山 宏	2016年度-2019年度	阿部 博之
2020年度-2023年度	小林 喜光	2024年度-	安西 祐一郎

会員数(2024年9月9日現在)

正会員 826名 賛助会員 48社・団体 客員会員 55名 (海外:15、国内:40)

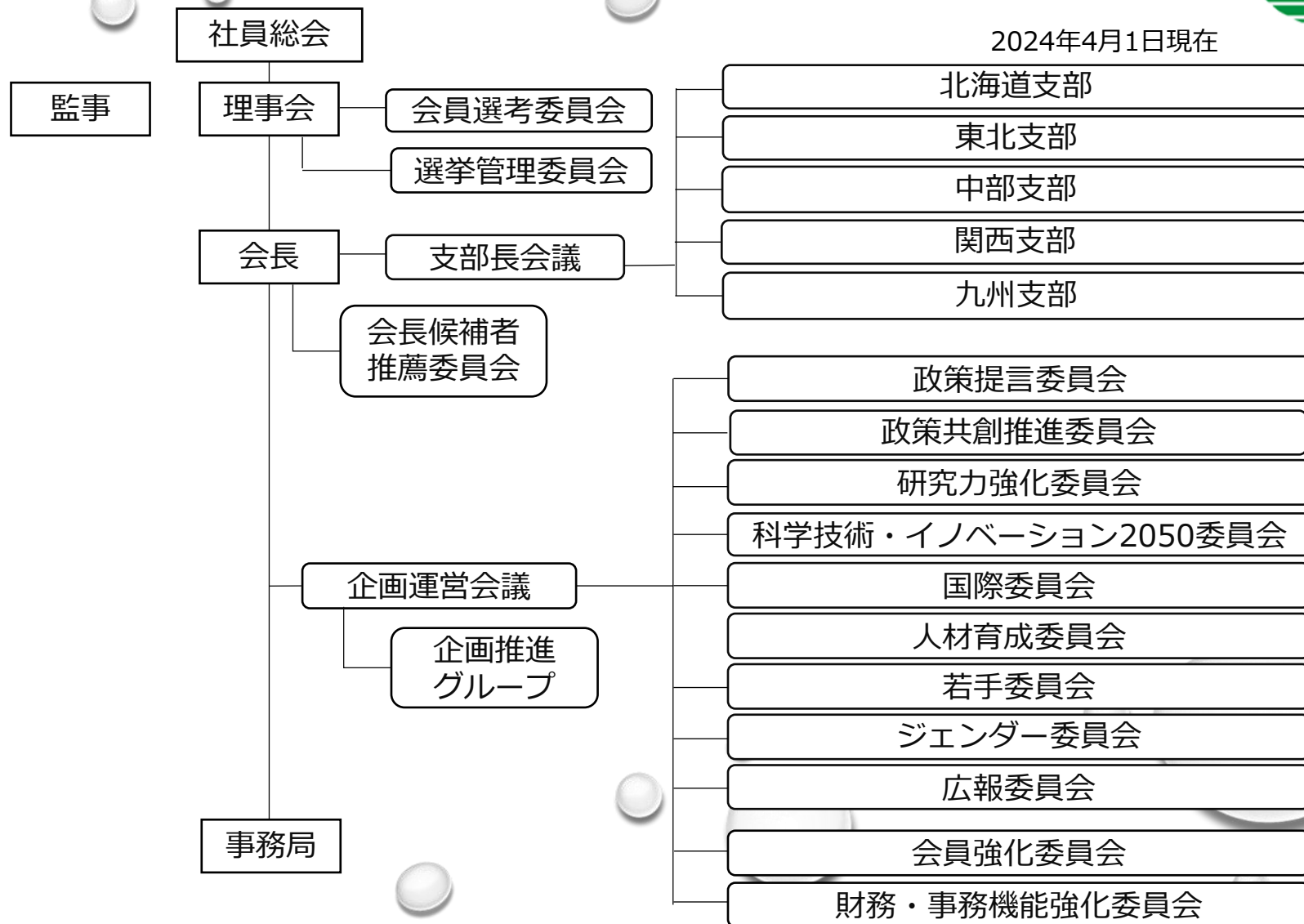
広く学界、産業界及び国の機関等において、工学及び科学技術並びにこれらと密接に関連する分野に関し顕著な貢献をなし、広範な識見を有する指導的人材によって構成される本会は、工学及び科学技術全般の進歩及びこれらと社会との関係の維持向上を図り、我が国ひいては世界の発展に資する

(『日本工学アカデミーの使命』より抜粋)

組織



2024年4月1日現在



役員・支部長・委員長



2024年6月6日現在

<u>会長</u>	安西祐一郎			
<u>副会長</u>				
<u>(会長代理)</u>	岸本喜久雄			
<u>副会長</u>	五十嵐仁一	大島まり	川合眞紀	
<u>専務理事</u>	城石芳博			
<u>常務理事</u>	坪井 裕	睦 哲也 (常勤)		
<u>理事</u>	浅間 一	伊藤 みほ	岩井 善郎	大村 直人
	沖 大幹	川合 知二	神崎 亮平	楠見 晴重
	小林 信一	塩満 典子	関谷 毅	瀬戸口 剛
	田口 康	田中 真美	谷 明人	塚原 健一
	長坂 徹也	中山 智弘	行木 陽子	久枝 良雄
	増田 隆夫	渡邊 政嘉		
<u>監事</u>	辻 篤子	林 秀樹		
<u>最高顧問</u>	吉川弘之	小宮山 宏	阿部博之	
<u>名誉会長</u>	小林喜光			
<u>顧問</u>	青山博之	池田駿介	梶山千里	神山新一
	嘉門雅史	久間和生	國武豊喜	小泉英明
	谷口 功	種市 健	中西友子	中村道治
	永野 博	菱田公一	堀 幸夫	松本洋一郎
	松尾友矩	御園生誠	三井恒夫	宮城光信
<u>顧問</u>				
<u>(栄誉フェロー)</u>	原山優子			

	委員会/支部等	委員長/支部長
委員会	会員選考委員会	岸本 喜久雄
	会員強化委員会	石原 直
	財務・事務機能強化委員会	睦 哲也
	会長候補者推薦委員会	小林 喜光
	選挙管理委員会	中西 友子
	企画運営会議	安西 祐一郎
	企画推進グループ	中山 智弘
	政策提言委員会	倉持 隆雄
	政策共創推進委員会	永野 博
	研究力強化委員会	杉山 正和
	科学技術・イノベーション2050委員会	沖 大幹
	国際委員会	原山 優子
	CAETS実行委員会	森本 浩一
	EA-RTM実行委員会	三島 望
	欧州交流委員会	永野 博
	JAFOE実行委員会	金谷 一郎
	ERLEP実行委員会	大橋 俊朗
	人材育成委員会	辻 佳子
	若手委員会	関谷 毅
	ジェンダー委員会	行木 陽子
支部	広報委員会	安永 裕幸
	北海道支部	瀬戸口 剛
	東北支部	神本 正行
	中部支部	林 良嗣
	関西支部	田中 敏宏
	九州支部	山田 淳

会員・賛助会員

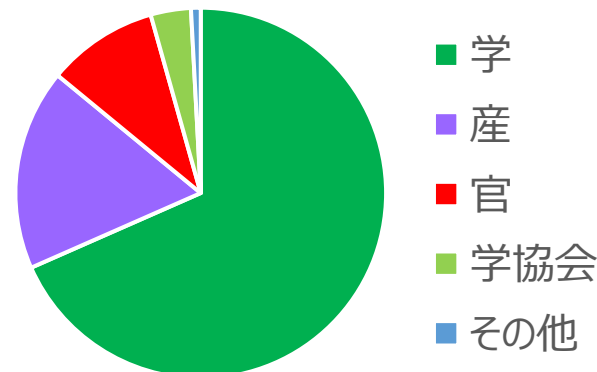


正会員:826名

産学官の指導的技術者で、日本国籍を有する者
(参考)博士:464名、人文系:18名(経済、商学、
法学、教養系卒など) 2024.9時点登録数

正会員、賛助会員、客員会員
2024年9月9日現在

専門分野別 内訳	機械系	情報・ 電気電子系	化学・ 材料系	建設系
会員数	172名	190名	153名	103名
%	21%	23%	19%	12%
資源・ ICT系	物理系	生命系	経営・ 政策系	横断領域
43名	32名	46名	63名	24名
5%	4%	6%	8%	3%



賛助会員：48社・団体

客員会員:55名

- (1) EAJに貢献された海外アカデミー
正会員15名
(2) EAJに貢献されている日本在住の
外国籍会員40名

日本電気株式会社、住友電気工業株式会社、富士通株式会社、トヨタ自動車株式会社、大成建設株式会社、鹿島建設株式会社、株式会社日立製作所、三菱電機株式会社、日本電信電話株式会社、株式会社東芝、三菱マテリアル株式会社、株式会社NTTデータ、株式会社NTTドコモ、日産自動車株式会社、一般財団法人新技術振興渡辺記念会、東京電力ホールディングス株式会社、東レ株式会社、国立研究開発法人科学技術振興機構、株式会社三菱総合研究所、株式会社IHI、株式会社島津製作所、株式会社建設技術研究所、ファナック株式会社、日本電子株式会社、パナソニック株式会社、株式会社日立ハイテク、株式会社カネカ、株式会社堀場製作所、国立研究開発法人海洋研究開発機構、富士フイルム株式会社、東京エレクトロン株式会社、三井化学株式会社、横河電機株式会社、株式会社クボタ、東海旅客鉄道株式会社、武蔵エンジニアリング株式会社、東北電力株式会社、三菱ケミカルグループ株式会社、DMG森精機株式会社、株式会社株式会社レゾナック・ホールディングス、ダイキン工業株式会社、旭化成株式会社、東海カーボン株式会社、AGC株式会社、株式会社大林組、株式会社野村総合研究所、大日本印刷株式会社、株式会社安川電機

定款5事業と2023年度事業



- 事業計画 ①共創基盤を活用し、社会・環境・経済課題のバランスの良い解決と価値創造、社会実装をめざし、**活動の一層の強化、EAI認知度の更なる向上**。②若手、女性、賛助、私大会員、支部、新興・人文社会科学分野など**多様化**を図るとともに、**価値創生基盤の一層の強化**。
(特記事項)コロナ感染症の社会的終息、紛争頻発に伴い、正味財産健全化、寄付金に関する内規案、客員制度の在り方見直し実施。

活動組織と活動概要

	政策提言委員会/研究力強化委員会	STI2050委員会/EAIシンポ実行委員会	若手委員会
(1)基礎研究	マテリアル科学PJ報告書発行、人類の安寧とより良き生存を目指す工学倫理と工学教育PJ、など推進中。	生産性という切り口で重要課題に関する技術習熟度の評価と展望を明確にすべく、経済停滞の根源、今後の強化策などに関して検討中。	新メンバーを加え、国会図書館「マテリアル科学」調査プロジェクト参画、公開ワークショップ開催、報告書作成。討論会3回。
(2)具体的問題	国際委員会 AEPMで「AIの健全な発展と信頼して活用できるAIシステムの構築、効果的な利活用の推進」表明。	政策提言委員会(プロジェクト) 渡辺記念会「ナラティブものづくりと未来創造」シンポジウム開催、社会、産業、人々の生活の変容を支えるGXの在り方PJなど推進中。	賛助会員ラウンドテーブル実行委員会 アンケートに基づき「生成AIの現状、課題と利活用戦略」をテーマに第7回賛助会員企業ラウンドテーブル開催。
(3)普及・啓発	広報委員会 「ミューオンと工学の未来」特集号などのEAI NEWS 4回発行、パンフレット作成・配布、メルマガ発行。メディア掲載頁。	政策共創推進委員会 国会議員との対話の会4回開催。米国現地調査実施。3年間の自己評価・EAIへの提言取り纏め発行。メディア対応活性化。	ジェンダー委員会 支部長との意見交換会開催。「無意識のジェンダーバイアスとイノベーション」シンポジウム、など実施。
(4)国際活動	国際委員会 国際工学アカデミー連合CAETS参加、2031年日本での総会開催提案。EA-RTM、JAFOEシンポ、AEPM開催。	研究力強化委員会/広報委員会 CAETS Statement(Towards low-GHG emissions from energy use in selected sectors)発行。アーカイブ英訳版増強・刷新。	支部 WTC ForumにEAI Sponsorshipで参画、中部支部 林支部長が基調講演。ICIC International 共催イベント開催。
(5)その他	人材育成/若手リーダー塾実行委員会 卒業生対象のOB/OG会、第2回若手リーダー塾は来年度に対面で開催する方針	企画推進グループ/政策提言委員会幹事会 未来社会に向けての重点課題(大括りテーマ)策定、支部長・委員長会、賛助会員RTで発信	支部/中国・四国支部設立準備委員会 全国規模・共創でのフォーラム、シンポジウムなど実施。中国・四国支部設立に向けキックオフ。
法人事業	社員総会/EAIフォーラム実行委員会 EAIフォーラム、賀詞交歓会対面開催、総会電磁化、EAI事業貢献表彰実施。	理事会 5回開催。叙勲候補者調査への対応、多様な理事候補推薦、客員会員活性化対応、決議。	企画運営会議 8回開催。重要行事企画案、寄付金に関する内規案などの審議、理事会上程。
	企画推進グループ 公益目的事業支援(政策提言新規テーマ立上げ、賀詞交歓会、談話会・新入会員がダウン、事業貢献賞等企画推進)。	会員強化/会員選考委員会 正会員:年度初817名→年度末835名 客員会員:年度初50名→年度末57名 賛助会員:年度初49→年度末50	財務・事務機能強化委員会 月次報告の徹底により正味財産健全化、特定費用準備資金の在り方検討など円滑な公益活動支援。IT環境効率化推進。
	副会長連絡会議 IT環境の抜本的改善、次期理事候補選定、収入増施策案等について審議。	戦略的国際対応実行委員会 EAI事業の活性化のため客員選考制度(海外、国内)の在り方について議論。内規に反映。	選挙管理委員会 選挙管理員会発足。2024年度理事及び監事候補者予備投票実施。
	(5)その他		

委員会・政策提言報告例

<https://www.eaj.or.jp/?name=seisaku-teigen>

- 環境・資源制約や技術進歩に伴い重大化する社会的課題について、その分野の第一人者を中核に分析し、産学から幅広い多分野の会員の意見をまとめ、EAJとして**組織的チェックを経た「先見的なメッセージ」**を発信。

2023年度終了・活動中

1. 海洋プラスチック研究 (PL: 橋本正洋)
2. 5G/6G 時代のAI 利活用戦略 (PL: 森 健策、副PL: 浅間 一)
3. マテリアル科学 (PL: 関谷毅、長井寿)
4. 政策共創推進委員会三年間の自己総括 & 日本工学アカデミーへの提言 (委員長: 永野博)
5. デジタル変革を可能にする先端半導体研究開発の在り方 (PL: 遠藤 哲郎)
6. 「人類の安寧とより良き生存」を目指した工学倫理と工学教育」(PL: 小泉 英明)
7. 「社会、産業、人々の生活の変容を支えるGXの在り方」(PL: 荻本和彦)

ここ4年間の外部からの受託による調査研究

1. ウィズコロナ社会後の人と機械の共生の在り方に関する科学技術の発展動向
(新技術振興渡辺記念会、令和2年度下期の科学技術調査研究助成採択)
2. 2050脱炭素社会構築に向けた持続可能なバイオマスプラントの開発のための調査研究
(新技術振興渡辺記念会、令和3年度上期の科学技術調査研究助成採択)
3. 未来の製造業における新たな学術領域構築のための調査研究
(**新技術振興渡辺記念会、令和5年度上期の科学技術調査研究助成採択**)
4. 「令和5年度科学技術に関する調査(分析型調査)」(調査テーマ「マテリアル科学」)
(**国立国会図書館、令和5年度分析型調査採択**)
5. 生成AIをはじめとしたAIによる社会変容とリスクマネジメントに関する調査研究
(**新技術振興渡辺記念会、令和5年度下期の科学技術調査研究助成採択**)
6. 来たるべき未来の工学倫理と工学教育に関する調査研究
(**新技術振興渡辺記念会、令和6年度上期の科学技術調査研究助成採択**)

支部活動

(会員数は2024.9.9時点)

関西支部 106 名

- 主催講演会
 - ✓ 第10回「工学が切り拓く産学共創・学際融合の世界～IoC(インダストリー・ウ・キャンパス)の見学とともに～」
 - ✓ 第11回「連携から融合へ：「若手研究者のための学際的探究」



九州支部 48 名

- 主催講演会
 - ✓ 支部講演会「工学の躍進-九州・沖縄地区から世界に-」
 - ✓ 高等専門学校出張講演会(第7回)「AIは理工系分野のジェンダー格差を解消できるか」
- 共催・後援
 - ✓ 九州工学教育協会シンポジウム
 - ・第15回「九州の大学・高専でのアントレプレシャス教育」
 - ・第16回「九州の大学・高等学校のアントレプレシャス教育」
 - ✓ ICIC学会との共催イベント(ICICIC2023)
- 活動:九州・沖縄地域の特長が出せるようにも配慮
 - ✓ インフラメンテナンス国民会議 九州フォーラム後援(2回)



北海道支部 42 名

- 講演会
 - ✓ 北海道支部茶話会「次世代半導体とエンジニアリング」共催シンポジウム
 - ✓ 北海道工学教育協会研究講演会「次世代半導体産業への人材育成」開催、東北支部発足記念シンポジウム共催
- 活動:北海道支部便り(1回/月)、NICHe未来科学オープンセミナーを協賛(5回)、北海道支部エンジニアリングカフェ



東北支部 104名

- 講演会
 - ✓ 北海道支部茶話会共催
 - ✓ 東北工学教育協会高専部会、及び北海道工学教育協会主催の講演会を協賛
 - ✓ 主催講演会「女性起業家への道-その2」
 - ✓ 秋田大学グローバルリソース研究機構主催合同シンポジウム「クリティカルメタル・脱化石燃料資源の安定供給に向けて」
 - ✓ 活動：NICHe未来科学オープンセミナー協賛開催(5回)



中部支部 76名

- 主催講演会:EAJ中部レクチャー
 - ✓ 第17回「個人情報保護・活用とその技術」
 - ✓ 第18回「QRコードの原点と成長」
 - ✓ 第19回「医工連携を意図した整形外科領域への参入」
- WTC China-Japan Engineering Academy Forum:
 - ✓ 基調講演:林良嗣会員、講演:三村信男会員、八重樫武久会員、上田多聞会員、林良嗣会員
- 活動:EAJC通信 第5号、第6号、第7号発行。



代表的メディア発表・掲載例

◎ 代表的メディア発表・掲載： ● Watchdog21 (20230616)“チャットGPTへの適応策は 一周遅れ取り戻す難しさ あらゆる専門知の結集可能か”、 ● 日本経済新聞 日経電子版 (20230315)「政治と科学がなかなか相いれないわけ」、 ● マイナビニュース TECH+ (20220524)「高専生がディープラーニングを活用した事業プランを競う“高専DCON”-企業例も」 ● 四国新聞(20220104)『女性研究者の未来探る 保井コノ（東かがわ出身）没後50年 理学博士しのびセミナー』、 ● 日本経済新聞 (20210825)「博士後期課程大学院生への支援強化を日本工学アカデミーが政策提言」インタビュー記事、など。

<https://www.eaj.or.jp/?name=a-media>

2020年7月1日	朝日新聞 論座 (20200701)	2021年7月28日	教育学術新聞 (20210728)
2020年7月8日	JST 客観日本 (20200708)	2021年8月25日	日本経済新聞 (20210825)
2020年7月21日	Watchdog21 (20200721)	2022年1月4日	四国新聞社 (20220104)
2020年8月10日	日本経済新聞 日経電子版 (20200810)	2022年2月22日	日刊工業新聞 (20220222)
2020年11月20日	日本経済新聞 (20201120)	2022年5月18日	タスカジ (20220518)
2020年12月9日	自由民主党政務調査会 (20201209)	2022年5月20日	マイナビニュース TECH+ (20220520)
2020年12月10日	Watchdog21 (20201210)	2022年5月24日	マイナビニュース TECH+ (20220524)
2020年12月24日	JST 客観日本 (20201224)	2022年6月6日	文教ニュース (20220606)
2021年1月18日	新技術振興渡辺記念会だより (20210118)	2022年10月24日	文教ニュース (20221024)
2021年4月9日	JST 客観日本 (20210409)	2022年10月27日	JST 客観日本 (20221027)
2021年5月7日	日刊工業新聞電子版「モノづくり日本会議 超モノづくりへの挑戦」	2023年1月30日	文教ニュース (20230130)
2021年5月	国連報告書May, 2021, (Article on P58 – 61)	2023年2月13日	JST客観日本 (20230213)
2021年5月13日	ビジネス+IT	2023年3月15日	日本経済新聞 日経電子版 (20230315)
2021年5月21日	井上内閣府特命担当大臣記者会見要旨 令和3年5月21日	2023年6月12日	文教ニュース (20230612)
2021年5月28日	科学新聞 (20210528)	2023年6月13日	マイナビニュース TECH+ (20230613)
2021年6月10日	経団連タイムス (20210610)	2023年6月16日	Watchdog21 (20230616)
2021年6月30日	朝日新聞 論座 (20210630)	2023年6月20日	JST 客観日本 (20230620)
2021年7月1日	JST 客観日本 (20210701)	2023年7月1日	NHKおはよう日本「3Dフードプリンターで作る介護食モデル」

価値創生基盤の強化に向けて

1. 実行委員会、検討委員会(WG)活動

- ・ 会員強化委員会による会員多様化
- ・ **新入会員発意のEAJフォーラム**開催
- ・ **対面賀詞交歓会**開催
- ・ 賛助会員ラウンドテーブル開催

2. 国際連携活動の強化

- ・ **客員会員関連の新たな仕組み**

3. 支部の新設に向けた活動

- ・ **中国・四国支部キックオフ**実施

4. 多様性・エンゲージメントの向上

- ・ **若手・女性理事・副会長候補者**選定
- ・ **パンフレット**改定
- ・ 近況報告の定常化
- ・ 事業貢献表彰・JAFOE表彰式実施
- ・ 新入会員ガイダンスの充実

5. 財務事務機能の強化

- ・ **総会電磁化**
- ・ 月次報告による実施
- ・ 国会図書館調査研究・渡辺記念会調査研究受託
- ・ **寄付金内規**新設

豊かな経験や識見と
幅広いネットワーク
による先導的な

提言発信活動

日本
および世界
の発展に寄与する

国際連携活動

共創による
未来への挑戦

多様な人材が
未来社会の担い手と
して活躍するための
人材育成活動

地方発の
科学技術イノベー
ションに挑戦する
支部活動

提言の波及効果の例

政策提言 “情報社会を先導する量子コンピュータ研究開発戦略”

2019.05.15

<https://www.eaj.or.jp/?name=prj-qc>

- 量子コンピュータの社会実装向け、産官学の当事者が集う産業化コンソーシアムが相次いで発足。
- 自然科学研究機構・分子科学研究所は2024.3.27、量子ビットの安定性が高いといった特徴をもち、大規模化にも向くとされる「冷却原子方式」と呼ばれる量子コンピュータの商用化に向けた協議体を設立したと発表。富士通や日立製作所、NECなど10社が参画し、**産学が連携して2024年度に新会社を立ち上げ、新会社の設立を機に開発の加速につなげる**考え（日経新聞2024.03.27）。

緊急提言－博士後期課程大学院生に対する支援の強化にあたって－ 2021.05.19

<https://www.eaj.or.jp/?name=teigen-202105>

- 〔1〕博士後期課程大学院生を研究者として
- 〔2〕博士後期課程の何をどう改革すべき
- 〔3〕財源確保の考え方
- 〔4〕博士後期課程修了後のキャリアパスの明確化

- 第6期科学技術・イノベーション基本計画において最も重要な事項の一つと位置づけられている博士後期課程大学院生の支援の在り方について、政府の施策が始まる時期をとらえて具体的な提案を行い、萩生田文部科学大臣、井上内閣府特命担当大臣を訪問、緊急提言手交、意見交換を行い、**「来年度予算の骨格を固める時期でもあり、内容だけでなく提言のタイミングもよい」**との反応を頂きました。

